

想創奏

第 50 号

発行人 荒川 輝男

編集人 出口 祐也

〒536-0013

大阪市城東区鳴野東 3-2-26

社会福祉法人そうそうの杜

Tel 06-6965-7171

Fax 06-6167-2622

H P <http://www.sou-sou.com/>



(そうそうの杜創立 20 周年記念講演会シンポジウムの様子)

早くも師走です。

理事長 荒川 輝男

月日の経つのが早すぎて新型コロナウイルスで明け暮れた1年があったという間に師走を迎えることになった。今回は、法人創立20周年記念ということで様々な方々の声を届けることができ、これに伴う計画も無事行うことができました。特に利用者・スタッフにはそうそうの杜のロゴ入りのジャンパーとポロシャツを贈り好評を得ている。

この機関誌については、編集方針がなかなか定まらずいつも思い付きのテーマで編集をしておりますが、今回から大きな二つの柱で特集していきたいと考えております。

一つ目は、私の師匠でもある關宏之さんに原稿をお願いしました。

本年5月に社会福祉法人日本ライトハウスを退職され身軽になったこともあり、現在幹部職員への教育、新人研修やスタッフ全体に対してサービス提供の姿勢ではなく、社会福祉の原点とは何かというテーマで講義・教育をお願いしている。(その内容についてはYouTubeでそうそうの杜を検索していただければ見ることができます)

荒川さんから「そうそうの杜通信」に何かを書くようにと依頼され、紙面を拝借して、私に書ける「何か」を書かせてもらうことにします。初回は、どこかで出会った「神様たち」についてオムニバス形式で「また逢いたい方々」としてまとめました。そうそうの杜のスタッフの方々とのメッセージボードになればと願うものです。

今年は、これまでになく“そうそう”との関わりがあった年で、ほっとする場でほっとする理事長やスタッフの皆さんと出会い、利用者の方々や商店街の佇まいに出会いました。

来る年の関係者の皆さんの安寧を祈念します。(關 宏之)

二つ目は、ミャンマー情勢について。ミャンマー人スタッフ ソウ アウンさんの報告を定期的に報告していきます。

政変に大きな疑問を感じながらも遠い国のことと傍観しているだけであったが、本年4月にミャンマー人との出会い、これがきっかけで現在1人プラス7人（日本語留学生のアルバイト）の8名の雇用関係ができ、ミャンマーという国が他人事ではなくなってきた感があり、法人としては東日本大震災以来、被災地支援を継続して行い、間に熊本地震やなど災害地支援、また募金関係では国境なき医師団やユネスコやあしなが基金にわずかではあるが支援してきた。今回は、ミャンマーという近くて遠い国との出会いから、憂う事態に驚きながらどのような支援ができるのかを検討し可能な支援を継続していきたい。いまだに日々の生活の中で命を脅かされている人々に対してミャンマー人とのつながりから、主に金銭的な支援になるかもしれないが、より安全な方法で少しでもできることを実行していきたい。

また人手不足の波は、当法人においても顕著で危機感も高まっているので、現在の留学生を2～3年の期間をかけて養成し、希望を持てる日本での仕事を提供し、現場での戦力として育てていきたい。

目次

法人創立 20 周年記念イベント

第Ⅰ部（講演）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4

第Ⅱ部（シンポジウム）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P6

關さんのエッセイ① また 逢いたいな「車掌さん」・・・・・・・・・・P7

イベント報告

南しぎの商店街の部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P8

競技大会の部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P11

關さんのエッセイ② また、逢いたいな「両手の花」・・・・・・・・・・P13

宮城県登米市、南三陸町訪問レポート・・・・・・・・・・・・・・・・P14

關さんのエッセイ③ また、逢いたいな「おかん」・・・・・・・・・・P19

第16回そうそうの杜大運動会レポート・・・・・・・・・・・・・・・・P20

關さんのエッセイ④ また、逢いたいな「吠える子」・・・・・・・・・・P21

ミャンマー関係レポート

ミャンマー情勢の今・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P22

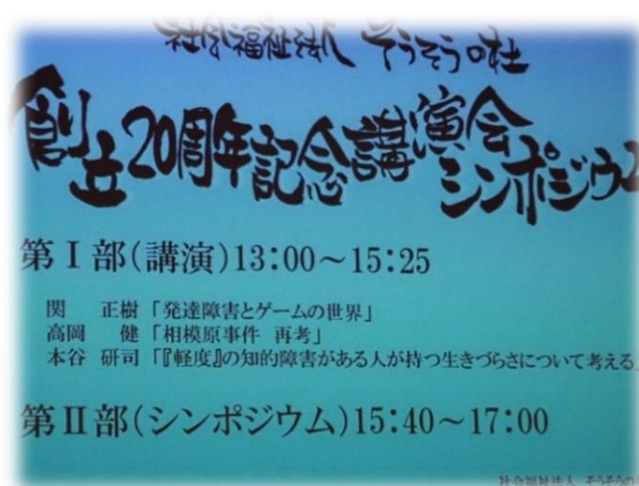
ミャンマー留学生の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P23

…法人創立 20 周年記念イベント…

社会福祉法人そうそうの杜 創立 20 周年記念講演会・シンポジウムを終えて

真頼 正施

城東区自立支援協議会の後援の下、2021 年 10 月 2 日に城東区民ホールにおきまして、無事、そうそうの杜創立 20 周年記念講演会・シンポジウムを開催することができました。2021 年 1 月に会場の使用を申込み、一度は受理されたものの、城東区の新型コロナウイルス感染症ワクチン集団接種会場として優先的に抑えられ使用不可と通達がありました。そのため、開催の案内、チラシ・ポスターの発送が思うようにできず、使用が許可された 9 月以降、急ピッチで準備を進めることとなりました。



企画としては、以下の通り 2 部構成です。

第Ⅰ部（講演）

- ・「発達障害とゲームの世界」
関 正樹先生（医療法人仁誠会大湫病院）
- ・「相模原事件 再考」
高岡 健先生（岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター発達医学研究所顧問）
- ・「『軽度』の知的障害がある人が持つ生きづらさについて考える」
本谷 研司先生（阿星山診療所）

第Ⅱ部（シンポジウム）

司会：大熊 章夫（法人理事）

シンポジスト：関 正樹、高岡 健、本谷 研司、關 宏之（法人相談役）、
小澤 奈津（法人スタッフ）、田島 直人（法人スタッフ）



※YouTube そうそうの杜チャンネルで公開中

講師の先生方には事前にオファーはしていたものの、会場が決定せず本当に開催できるのか…とやきもきとする時間だけが過ぎていました。9月からの準備の動きは素早く、開催に向けて物事が進む様子は見ていても非常に楽しく感じられました。この間、多くのスタッフが日々の業務の上に更なる負荷をかけ、創立20周年記念事業の成功に尽力しておりました。感謝の言葉しかありません。

当日は、272名の皆さまに会場いただきました。新型コロナウイルス感染拡大の第5波が終息しつつあり、緊急事態宣言が9月30日に解除されたばかりでありました。当然ながら、感染予防対策として、アルコール消毒・マスクの着用・換気・ソーシャルディスタンスの確保を実施し、できる限りの備えをしたうえで開催しました。ホール前では、創立20周年記念誌の配布や講師の先生方の著書の紹介、オリジナルTシャツの販売等を実施しました。



第Ⅰ部（講演）について

関先生の「発達障害とゲームの世界」という講演は、まさに、今の子どもたちの間でリアルタイムでおきている問題について話されており、親として大人がどのように対応すべきかヒントを教えてくださいました。ゲーム症やインターネット依存について大人にも当てはまるものであり、ゲームの世界

を知ることから始める必要性を痛感しました。

高岡先生とは10年以上のかかわりであり、法人スタッフ研修で毎年講師をお願いしておりました。高岡先生の著書である『16歳からの＜こころ＞学「あなた」と「わたし」と「世界」』の解説から始まり、その時々話題となった事件について話していただいております。具体的には、神戸市連続殺傷事件の少年Aの分析としての「絶歌」論や「愛着障害」、

相模原障害者施設殺傷事件の解説などその時々話題について講義いただいていた。今回の「相模原事件 再考」という講演は、2016年の事件発生から5年が経過した今だからこそわかってきた事実に基づいて、植松聖の意思・被害者の意思・被害者家族の意思・法人（かながわ共同会）の意思という4つの視点からそれぞれの立場でお話いただきました。

本谷先生も高岡先生と同様に、法人スタッフ研修の講師として10年近くお願いしています。強度行動障害や自閉スペクトラム症、重度知的障害に関するお話をご自身の臨床経験に基づいて様々なお話をしていただいております。今回の『『軽度』の知的障害がある人が持つ生きづらさについて考える』では、新型コロナウイルス感染症に対する不安を例に挙げながら、支援者以前に人としてのかわりの中で大事にするべきポイントをお話いただきました。

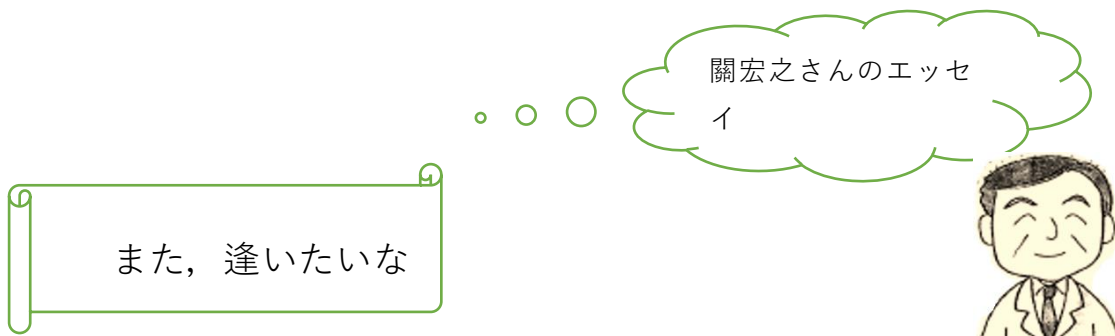
第Ⅱ部（シンポジウム）

法人の理事である大熊章夫さんに総合司会を依頼し、第Ⅰ部の3名の講師に相談役である関宏之さんと小澤奈津スタッフ・田島直人スタッフを加えてシンポジウムを開催しました。本日のそれぞれの講演とそうその杜の理念や取り組みの特色を関連付けながら、意見交換をすすめ、会場からの質問にも答えていただきました。これまでの20年を



ふりかえりつつ、これからの10年…20年を考えるうえで、大事にしなければならないことを確認できた時間であったと思います。

今回、このような企画を開催することができたこと皆さまに感謝申し上げます。当日ご来場いただいた方、ご来場かなわなかった方々からも温かいお言葉をたくさんいただきました。そうその杜が、多くの皆さまから支えられていることを改めて感じることができました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



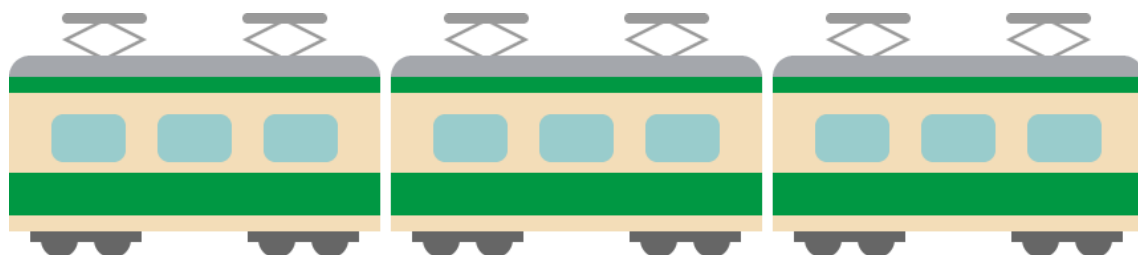
「車掌さん」

数年前の東西線の電車での出来事です。随分と根をつめた仕事にケリがついて、気分も軽やかに、宝塚行きの快速電車のドア近くに座ることができ、ついウトウトしていました。「ドアが閉まります。次は、大阪天満宮です。電車とホームの間が広がっていますのでご注意ください！」という声で目が覚めました。こんな車内アナウンスを聞いたことはなく、誰かなと目を凝らすとドア付近で白いワイシャツ姿の青年が電車のドアの開閉にあわせて連呼しているのです。北新地駅で一仕事を終えた彼と目が合いました。彼は「うるさいか？」とでも問うように私の方を伺いました。私は頭をよこに振って「そうでもないさ」と応じました。彼は「ウンそうか」とでもいいたげにうなずきながら「御幣島駅でおるわ」と告げ、新福島駅、海老江駅でもサービス(?)を繰り返しました。連呼が終わるたびに彼と目が合います。「どうだ！」とでもいいたげでした。私はうなずいて同意の合図を送り返しました。それなりに混んでいた車内でしたが、乗客の方々には関係のない二人だけのやりとりでした。御幣島駅に着くと、彼は、右手をちょこんと挙げて降りていきました。「なーに、そんな大層なことをやっているんじゃないよ！」とでもいいたげでした。私も右手を振って「じゃあーね」と応じました。電車を降りた彼はすぐに雑踏に吸い込まれていきました。

恐らく彼は「車内では静かにしなさい」と諭されながらも、しかし、電車に乗ったら車掌さんのように連呼するという衝動を抑えることができずに、「次は〇〇駅に止まります・・・」を披露していたのだと思います。中にはうるさいと思う人もいるのでしょう。たった10分ほどでしたが、私には形容しがたいハッピーなひとときでした。

次の日に職場でスタッフに「昨日帰りの電車で神様に逢ったよ！」といいましたが、「そんな・・・」というだけでだれも相手にしてくれませんでした。その後彼に逢ったことはありませんが車掌さんは今も健在だと思っています。

私の父は国鉄職員で家には父の制帽があり、私も父の帽子をかぶって「出発進行！」と点呼したものでした。



・・・イベント報告・・・

新型コロナウイルスの流行に伴い大小さまざまなイベント等が感染防止の旗印のもと中止を余儀なくされてきました。この間、法人においては事業所の休業や自粛というものを極力増やさないように普段の事業運営の中で徹底した対策をとってきた結果、コロナ禍が叫ばれて以来、内部からの発症者はなく現在に至っています。今回は久しぶりに地域の活性化を図るために11月3日（土曜日）にコロナ対策を十分行ったうえで二つのイベントを併せて開催しました。

一つは、半額倉庫商店街と銘打って ISOYU 株式会社の協力を仰ぎ、南鳴野商店街を使って商品を半額以下で提供し地元の商店会の皆さんとおこないました。

二つ目は、近隣の城東幼稚園のグラウンドをお借りしてそうそうの杜ルールのボッチャ&モルック競技大会を実施しました。

両競技ともたくさんの参加者があり、大変盛り上がり以下にその報告をいたします。

当日の様子は、半額倉庫の YouTube にて半額倉庫商店街開催当日レポートにてご覧いただけます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・南しぎの商店街の部・・・

半額倉庫商店街 in 南鳴野商店街
社会福祉法人そうそうの杜と ISOYU 株式会社合同開催

山川 真司

11月13日（土）に初の企画となる半額倉庫商店街を開催しました。

今回の企画については、元々コロナ過が落ち着いてきている折に、当法人と南鳴野商店街で何かできないかという話をしている時に、以前より交流のある半額倉庫（テレビやマスコミでも話題になっている）を兵庫県の播磨にて店舗運営している ISOYU 株式会社の磯遊社長に伝え、「可能であれば空いている幾つかの店舗を使って一日だけの商店街をできないか」という提案に対して「場所や人はそうそうの杜が商店街の方たちと調整してもらえれば、商品は準備しますよ」という事になり、一気に話が盛り上がった。

しかし、実際に準備段階に入ってくるといくつもの問題が浮かび上がってきた。

- ・前日に商品を入れるつもりで動いていたが、実際には一週間前から商品が入ってくるとなり、どこに置いておくのか？
- ・当日の人数が読めない事。整理券の発行で調整したが地元の人はどうするのか？

- ・当日のスタッフの配置は可能だが、値段が分からず販売していけるのか？
- ・準備にどれだけの時間が必要なのか？
- ・実際に借りられる店舗はどこなのか？何時から何時まで借りられるのか？
- ・店舗を構えてレジにて整理券を見せてもらうというが、実際に支払い段階で整理券が無いとなり買えない！という事でのトラブルが起きるのではないか？

など、たくさん出てくる課題や問題をクリアしていく事が必要だった。が、普段から荒川さんを筆頭に利用者やスタッフが商店街の人や町会の人と色々な関わりを取ってくれている中で、店舗の確保・商品を保管する場所の確保は、商店街及び不動産屋さん（株式会社ミック）のご厚意によって対応できた。

また、商品搬入時にはスタッフだけではなく利用者も積極的に手伝ってもらったおかげで予想よりもスムーズに受け入れることが出来た。

試行錯誤をする中で、私たちの不安や心配と、ISOYU(株)さんの思う所とのギャップが出てしまう事もあり、非常に緊張する日々でした。



やっと半額倉庫商店街の開催日当日が来て、自分だけでなく商店街然全体がざわざわとした空気の中で、人が多く商店街に集まりだした。

また、ワークショップ'99さんが祭りなら出ますよ！と1ブース分半額に合わせて出店していただき、来られた子供たちにとっても楽しい場所になっていた。



そんな中、突然商店街の会長が、綿菓子を作って販売したり振る舞ってくれたりと言うサプライズもあり笑顔が、さらに多く出ていました。

朝のスタート時が結果的に一番多くの人 came が、整理券の効果もあり人で動けなくなるようなこともなく、丁度良い人手になったことで従来のお店も満足してもらえる結果となった。



1日を通して人が絶えることはなく、賑わいのある

1日だったこと、更には商店街にいる人たちが皆さん笑顔だったことは、「成功」という結果になったと思う。地域と福祉と企業のコラボという点でも他の地域では実現が難しいと思う、今後もこの地域において可能性を広げていきたい。

当日の店舗設置や運営については、スタッフが指示以上にテキパキと設置や販売に動いてくれ、スムーズに運営出来たと思う。

また、初めての試みで花吹雪一座（チンドン屋さん）藤野代表のにオファーしたところ、「やりましょう」と快い返事をいただき、「1日を通して様子を見て出るよ」「まかしとき」と言ってくれたことは大変うれしく当日も衣装を変えたりしながら盛り上げてくれた。



最後に今回の経験はスタッフにとっても利用者にとっても、すごく楽しくうれしい経験になったと思うし、やっぱりイベントがある

というのは町内や商店街にとっても大事な事だという認識が出来たと思う。そういったイベントを行う事で地域で暮らしていく利用者にとっても、繋がり日々の日常に関わりが出来ていくという事を忘れずにこれからも進めていきたいと思う。

今回、ご協力いただいた利用者・地域・商店街の方々、スタッフに心からお礼と感謝で一杯です。また今後ももっと楽しいことをやっていきたいとも思うので、これからもよろしくお願いします。本当に楽しい一日になりました。

・・・競技大会の部・・・

そうそうの杜ボッチャ&モルック大会

樋口 尚紀

11月13日（土）にボッチャ・モルック大会を開催致しました。参加者は今回も地域の方々がたくさんご参加頂きました。もちろん、そうそうの杜からも各事業所からチームを作って参加しました。

午前中はボッチャ大会です。公式のルールとは違いブルーシートをコートとし、赤チームと青チームが対面から交互に的球に向かって投げ合うというそうそうの杜ルールで行いました。16チームがエントリーし、まずは4チームずつコートに分かれて総当たりの予選リーグ。そして各コートの1位が決勝トーナメントを戦い抜き優勝チームが決まります。

参加者の中には前回も参加された方もいらっしゃったことありますが、ルールも簡単でわかりやすいためスムーズに進行しました。また、小さなお子さんや球を待つことが難しい方などは手作りの投球補助具（公式な物はランプと言うらしいですよ）を使い投げてもらいましたがこのように出来るだけ多くの方が投げられるということもボッチャという競技の魅力の一つですね。

私が審判をしたコートでも面白い試合が繰り広げられました。前回も参加された城東地域活動協議会の方々は勝ちへの想いが強く、投球者が投球ラインを越えないようお互いに声を掛け合っていました。結果、予選リーグを1位で突破し決勝トーナメントでは惜しくも3位でしたが皆さんお上手で試合を盛り上げていただきました。もちろん他のチームの方々の試合も盛り上がり、小学生のお子さんは投球コースや力加減も安定したもので子どものセンスは、やはりさすがと感心させられました。あと、もっと小さなお子さんも参加されていましたが、その子が投げる時にはチームの皆さん総出で投球補助具を持ってあげる姿がとても印象的でした。（ファミリー愛ですね！）

決勝は座座 VS 伝でした。「いやいや…主催してる法人からの出場チーム同士の決勝で…」と心の中で思われた方は私だけではないでしょうが、そこはまあ…正々堂々と戦った結果ということで良しとしといて下さい。ちなみに優勝は座座でした。おめでとうございます！（ちなみに伝は私の所属している事業所なので伝に勝ってもらいたかったですね）

午後からはモルック大会です。モルック大会は参加チームも少し増え20チームでの戦いになりました。5チームずつコートに分かれ予選リーグ、そして各コートの1位が決勝トーナメントと試合形式はボッチャ大会と同じです。

モルックのルールは少し複雑で、ざっくり言うと12本のスキttlという木製のピンをモルックという木製の棒を下手投げで倒し、「複数本倒れた場合は、本数＝点数」「1本しか倒れなかった場合は、倒れたスキttlに書かれている数字＝点数」になり、得点を加算していき50点ピッタリになるまで順番に投げ続けるというゲームです。このスポーツがおも

しろいのはスキttlが倒された地点で立て直すのでどんどん最初にセットしている位置から散らばり、広がっていくことで倒すのが難しくなってくるところです。そしてまた、50点をオーバーしてしまうと25点へ減点されゲームを継続することになったり、3回連続でスキttlを倒せずに失敗するとそのチームは失格となったりします。(…これ以上の説明はややこしいので詳しくはご自身で調べて下さいませ(・^・^A))

モルック自体が木製であり重さもあり、スキttlに当てなければならず、さらには計算していかななくてはならないということなど難易度は上がるのでどちらかと言うと大人の方が楽しまれている様子でした。お子さんも上手に当てている子もいればなかなか当てられず悔しさに涙を浮かべている子もいました。それでも諦めずにがんばっている姿は微笑ましい限りでした。(本当はもう一回投げてもいいよと言いたかったですよ(ノロノロ)ｼｼｼ…)

実際にゲームをしていくと皆さんすぐにルールは理解されスムーズに試合は進んでいきました。そして自然とモルックという魅力にハマっている様子でした。特に散らばっている状態で、狙う点数の書かれてあるスキttl 1本を倒した時の盛り上がりはすごかったです。そしてそれを丁度良い場面でやってのける参加者の皆さんの活躍は開催側としても有難かったですね。決勝戦でドリームチームさんは最後50点になるための投球を1本倒して点を獲得し見事優勝となった場面は皆が「うおー！」と叫び声を上げており最高でしたね。(たくさんの大人があんなにテンション上がるなんて、スポーツっていいですね！)

最後に、ポッチャ&モルック大会全体を通して地域の皆様のご参加によって本当に良い一日になりました。小さなお子さんから高齢の方まで、そして書く必要ありませんが障害のある方も一緒になって一つのことで楽しく過ごせたことは大切な時間であったと思っています。普段地域に住む方とはある程度決まった方との関りが多く、他の方々とはお互い接する場面は少ないかもしれません。しかし、確かに同じ地域に暮らし、生活を営んでいる仲間であり大切な存在ではないでしょうか。繋がっていても気づかないだけかもしれませんね。私たちはそういった気持ちを当たり前のように感じてもらえるよう意識しながら障害のある人たちと日々関わっているつもりです。その繋がりを感じてもらえるのが今回はたまたまポッチャ&モルック大会であっただけです。これからもこうした行事を企画したり参加したりしていきたい想いと、もっと日常的に意識することなく繋がる事が出来る地域創りに微力ながら携わっていかれたらと思う次第です。今回も場所を提供して頂いた城東幼稚園様、並びに大会に参加された皆様には本当に感謝しています。ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。



關宏之さんのエッセイ

また、逢いたいな



「両手の花」

岡の上のわが家から駅までの下りの道で、いつもの三人連れが前の方を歩いています。少しふっくら気味のお母さんとおぼしき方とその両脇には年齢でいえば3～5歳ぐらいの男の子が手をつないで、山茶花の生垣の合間の坂道を下ってきます。左側の男の子は、上から下まで赤一色です。広島東洋カープのファンなのでしょう、Cのマークのついた赤い帽子、ジャージの上下、ナップサック、靴まで赤です。右側の男の子は少し控えめで、水色の帽子、ジャージ、ナップサックで白い靴を履いています。帽子は横かぶりです。この一行はとても物静かで、お母さんが子供たちを強く誘導しているようでもなく、子供たちも引っ張られているというのでもなく、ただただ「この坂を下ったら・・・」と歌っているようなノリです。近くに療育センターがあるのでそこに向かわれるのだろうと勝手に推測しています。いろいろなことがあるのだろうけど、この落ち着いた一行と出会うたびに、不謹慎にも「両手に花」ならず「いよっ！両手の花」と声をかけたくくなります。山茶花の赤い花が咲くこの時期になるたびに思い出す光景です。

引っ越ししたので逢えなくなったのですが、今日も何事もないように、穏やかに歩いておられるのだろうと思っています。



宮城県登米市、南三陸町訪問レポート

とことこっと／徳岡 信

2021年6月13日～14日、NPO法人奏海の杜第10回総会、交ゆう館かなみ御披露目に合わせて、荒川、山川、川内田、樋口、徳岡5名で、宮城県登米市及び南三陸町他を訪問させていただきました。

13日は空路仙台入りして登米市に向かいました。登米市はちょうど朝ドラ「おかえりモネ」の舞台でもあり、訪問した重要文化財の教育資料館には特設コーナーが作られ、観光客もたくさん来ていました。その教育資料館の近くに交ゆう館かなみがあります。

【奏海の杜・交ゆう館かなみ】



「交ゆう館かなみ」は木材がふんだんに使われ、2階の大きな窓からは光もたくさん入り、とても素敵な建物でした。ここでNPO法人奏海の杜第10回総会が行われ、出席させていただきました。「交ゆう館かなみ」は、障害児放課後等デイサービス「子ども広場にこま〜る」と、障害者就労継続支援事業所「かなみのもり」の多機能事業所ですが、それだけでなく、様々な人が楽しく出会う場所になることを目指して新築されました。

総会終了後、南三陸町に移動。「ホテル観洋」に宿泊しました。ここは震災後数ヶ月、避難施設として機能したホテルで、ロビーには当時のパネルや資料が展示されていました。私自身、南三陸町を訪問するのは今回3回目で、震災直後に来た時は、仙台市内から往復するため「ホテル観洋」の前を何度も通過、当時は自衛隊の給水車が数台止まっていたことを覚

えています。

翌日は南三陸町をめぐりました。当時からは想像できないくらい大きく変わっており、驚くばかりでした。以前の写真が数枚ありますので定点で比較できるよう並べて、震災からの復興を報告させていただければと思います。

【志津川中学からの遠景】



2011.5



2012.8



2021.6

【志津川湾】



2011.5



2021.6

【防災庁舎】



2011.5



2012.8



2021.6



2021.6

【国道 45 号線】（正確には少し場所が異なる）



2021.6

2011.5（自衛隊の仮橋）

【さんさん商店街】



2012.8



2021.6

【(旧)戸倉中学校より(旧)戸倉小学校方面遠景】



2011.5



2021.6

今回はこの他に大川小学校や女川などを訪問させていただきました。大川小学校はまだ2011年3月から時が止まっており、言葉にならない気持ちでいっぱいになりました。女川の慰霊碑の献花台にはまだたくさんの花が添えられていたり、道路わきの墓地の墓石が真新しかったり、堤防がまだ工事中であったりと、震災はまだ終わっておらず、復興もまだまだ途中であることを実感させていただいた訪問となりました。

【石巻・旧大川小学校】



關宏之さんのエッセイ

また、逢いたいな



「おかん」

その昔、発達障害のある幼児教育関係のシンポジウムのコーディネーターをした時に体験したことです。シンポジストは、幼児教育を専門とする大学教員、支援センターの所長、特別支援学校の教員、発達障害児の保護者の方の4名でした。先生方は障害児の養護・教育に関する理論や方法論、早期教育の大切さを話されました。よく聞くお話しでした。ところが、保護者である“おかん”は、「あなた方はどうしてそのように紋切り型なんですか。私は皆さんの忠告通りに懸命に子供に付き合い育ててきたつもりですが、それでも子供と交われない時もあるって、どうしたらいいのかわからずに途方にくれます。だけど『わからないこと』も含めてそれを引き受けているのが私なんです。つながったり途切れたりしながら子供の親を続けるのです！」と発言され、会場が静かな安堵感に包まれました。

露の段六さんという落語家が「あほやけど、ノリオ-ダウン症の兄貴をもって（中央法規出版 2004）」という本を出され、講演会をもったことがありました。ノーマライゼーションがどうした、当事者の側に立て、そんなこと言われんでも“おかん”はオロオロしながらとうの昔から兄貴の年齢におうた折々の行事を祝ってきた。私も「でけへんことがギョウサンあるけど、兄貴やねん。兄貴のおらん人生は考えられへん。足したり引いたりできへんねん。これが自分やねん」と結ばれました。神戸大学で幼児教育を専門に学んだ段六さんの淡々とした語りに参加されていた保護者の方々がいつもと違って、凜とされているように見えました。関西人が「わいはアホや！」と吠えるときには「アホは勲章や！」とでもいうとてつもないプライドと「ホロリと涙」があります。浪速人の根底にある「笑いとペーソス」というんでしょうか。

ペーソス(pathos)の語源は悲哀・哀愁を意味するギリシャ語のパトスにあります。私が在籍した高等学校のモットーは「ロゴス(論理)とパトス」で、それをロゴスの葉、パトスの葉として交錯させた校章でした。その意味を何度も聞いた高校時代でした。「ロゴスをパトスで包む。それが人の道ちゅうもんじゃい。」を実感した二つの講演会でした。



・・・第16回そうそうの杜大運動会レポート・・・

運動会実行委員長：大竹 寛輝

令和3年10月23日（土）に毎年恒例のそうそうの杜大運動会が行われました。一昨年から新型コロナウイルスの流行と共に開催が危ぶまれたなかですが、スタッフはもちろん、利用者の皆さん、ご家族の方、来賓にいられた方の皆さんの協力のおかげで無事開催することができました。この場を借りて感謝申し上げます。

まず初めにそうそうの杜に音楽（歌）の講師としてきていただいているチャミ先生の演奏を行いました。食事中という事もあると、初めはBGMのような感じでした。盛り上がってくると共に利用者の皆さんも我先にとスピーカーの前に集まって



最終的に朝礼台の上にのぼって踊る人や思い思いのダンスを踊っている姿を見るとコロナウイルスなんてどこ吹く風のように感じました。（＾＾♪



昼食が終わり、競技に入ります。今年も競技数が少なくなりましたが、ゲリラ的にプログラムになった競技も入れ、結果的には盛り上がる事ができたと感じています。大玉転がし、障害物競走、リレー、綱引き、モルックを行いました。

今年は黄色組が優勝し、優勝チームだけが権利を有する景品もゲットしました♪

さて、景品は何だったでしょうかね～（・・・？

また、合同会社ベースワン（訪問歯科）さんから素敵な景品を頂き、各チーム最も頑張っていた2名（計8名）がMVP賞として表彰されました！



来年はコロナウイルスを気にすることなく、存分に体を動かせることを願うばかりです！

關宏之さんのエッセイ

また、逢いたいな



「吠える子」

昔、青森で開催される全日本手をつなぐ育成会の全国大会に向かう機内でのことです。台風シーズンということもあって青森に近づくにつれて飛行機は強風と大雨に翻弄されて雲間をグラグラと揺れながら飛んでいました。通路を挟んだ隣の座席に、お母さんと幼児が座っていましたが、恐怖におびえたお子さんは金切声で泣きわめいていました。その鳴き声は手立てのない状況にある搭乗者達の恐怖感までも増幅したようで、機内は重苦しい雰囲気になりました。私の田舎では、どうしようもない苦境のなかで泣くこともできないほどの極限状況を「ほえる（吠える）ようだ」と表現しますが、お子さんだけではなく、大人たちもその息苦しさに吠えたかったのです。大粒の雨を飛行機のライトが照らしています。アナウンスで青森には着陸できないので函館まで行くと告げられました。お母さんは懸命に「大丈夫だからね。」とお子さんをあやしておられたのですが、お母さんも限界だったのでしょう「母さんだって怖いんだよ！」と涙声で訴え、お子さんを包み込むような仕草でグューと抱かれていました。お子さんにお母さんの心臓の鼓動が伝わったのか、必死の心根や祈りが伝わったのか、お子さんは泣き止みました。

機体は大いに揺れていましたがこの一部始終を目の当たりにしていた乗客は深い感動を覚え、安堵感に包まれました。函館空港から青函トンネルを通して青森まで引き返すことになりましたが、乗客は、このお母さんとお子さんに手を振って飛行機を後にしました。



…ミャンマー関係レポート…

ミャンマー情勢と法人とのかかわりについて

4月に偶然にも城東小校下地域の方からの紹介でソウ・アウン (Zaw Aung) さんに出会いました。我々も詳しい事情が分からないままミャンマーのニュースに心を痛めていたのが直接ミャンマーの情勢を聞くことができました。

その時は、茨木市で会社勤め（通訳）をしておりで彼が現在の仕事を辞めて福祉の仕事をしてみたいということから法人にて採用することになりました。その後日本人女性との結婚を経て在留資格の制限がなくなり晴れて日本での労働の制約がなくなりました。彼ら夫婦の橋渡しで現在7人のミャンマーからの留学生に働いてもらっています。（学生の間は週の労働時間が入管法で28時間までと決められている）

それぞれの留学生が夢をもって日本にきてからミャンマーの情勢が変わり、ここが揺れている中でも日本で自立して働きたいとの思いを強く持っており、日本での資格習得（介護福祉士）に向けて法人として支援しながら現場での戦力として独り立ちしてもらえるまで支援していくつもりです。

また、今回の出会いを機にミャンマーへの支援を法人として取り組んでいかなければならないと考えております。

この前提で、今号から何回かにわたりミャンマーの生の情勢を報告していきたい。（荒川）

.....

ミャンマー情勢の今

ソウ アウン (Zaw Aung)

私がそうそうの杜と出会ったのは2021年4月でした。国軍によるクーデターでアウンサン スーチー氏が軟禁されてちょうど3ヵ月目に入ったところだった。ミャンマー国民たちは本当に大変な事になっていて、ミャンマーという国の将来が見えなくなっていた。国が国軍に取られたのが2021年2月1日だった。選挙に不正があったという理由でクーデターを起こしたが、ミャンマー国民はそれが正当な理由でないことは分かっていた。

このまま続いたら35年前の暗黒時代に戻ってしまうから、そういう暗い時代になりたくない国民たちがアウンサン スーチー氏を解放するように全国でデモを行った。デモに参加したミャンマー国民のうち、国軍に殺されたのは1200人位とニュースでは発表されたが、実際はもっと多くの国民が殺されている。また、刑務所に収容された国民も8000人以上に

なっている。

現在、国軍に国を取られて 9 ヶ月が経ち、ミャンマーは戦争状態が続いている。世界中でニュースになっていない州や街、田舎などが軍に攻撃され村全体が燃やされていて、そこに住めなくなっていて、森の中で家も無い、食べる物も無く避難している人達もますます増えてきている。

市民的不服従運動（CDM）をした人達も避難生活をして、家族と離れ、とても困っている。

一方で、コロナが最も酷かった 2021 年 6 月頃にニュースにはならなかったが、亡くなった人は 1 日 2000 人以上いた。

コロナ感染死亡者をゴミ処理と同じような機械で処理していたニュースも国内でも海外でも流していなかった。その頃、ヤンゴンに住んでいる市民はほとんどコロナに罹っていた。

今はコロナは少し治まっているが、国の状況はますます悪くなっているし、僕の友人や知り合いにも国軍に捕まっている人がいる。最近では毎日殺されている人がいるが、インターネットも切断され、ニュースにもならない状況です。

できれば日本の皆さんにも出来る範囲でミャンマーを支えて助けて欲しいです。

.....

ミャンマー留学生について

そうそうの杜では 4 月から 7 名のミャンマー留学生の方々が働いています。

彼らは学校がある日は早朝や夕方に働き、夏休みなどの長期の休みがあるときは日中事業所でそれぞれ働いています。言葉は通じにくいときもあり、時にはスマホの翻訳アプリを使って会話をするときもありますが、日々日本語を勉強しており最初の頃に比べるととても上達しています。また、仕事に対してもとても一生懸命でこちらが頼んだことをテキパキとこなしてくれて多くのスタッフが彼らに助けられています。

今回はそんなそうそうの杜の一員になった彼らの紹介をしていきたいと思います。質問については実際彼らに書いてもらったものをそのまま載せています。

また、紹介の後には 8 月に大阪の牛滝温泉に理事長や理事、スタッフと一緒に研修旅行に行ってきたのでその時の写真も載せています。



エー・ニー・ライン

・あなたの名前は？

AYE NI HLAINGI

・好きな日本の料理は何ですか？

カレー

・趣味は何ですか？

サッカー をする ことです

・行ってみたい場所はどこですか？

スジさんです

・休みの日は何をしていますか？

料理 を 作ります

・好きな日本語は何ですか？

ぶんしょう

・今欲しいものは何ですか？

お母さん

家族がよくいんきになって せいがつしていることが うれしいです

・日本に来て驚いたことはありますか？

日本に来た時、はじめてちがてつを のりました。その時、ちがてつを たてる 分たは とても 素晴らしい と思いました。それは おどろいた ことです。



ヤダナー・トゥン

・あなたの名前は？

私の名前は ヤダナー・トゥン です。

・好きな日本の料理は何ですか？

好きな 日本 の 料理 は すし、飯 と ヤキソバ です。

・趣味は何ですか？

私の 趣味 は 歌 を 聞く ことです。

・行ってみたい場所はどこですか？

行、て みた い 場所 は かまくら だ、り、ぶ、う、へ 行きた い です。

・休みの日は何をしていますか？

休みの 日は 買、物、し、た、り、料、理、を、作、た、り、の、り、休、ん、た、り、し、ま、す。

・好きな日本語は何ですか？

好きな 日本語 は「元気」です。

・今欲しいものは何ですか？

今 欲、し、い、も、の、は「か、り、ご、ふ、く、し、ち、か、く」です。

・日本に来て驚いたことはありますか？

日本 に 来、て 驚、い、た、こ、と、は 地、下、金、失、で、す。



エー・ピュー・ジン

・あなたの名前は？

私の名前は エーピュージン です。

・好きな日本の料理は何ですか？

女子好きな日本の料理は すき焼き と 天ぷら と 焼肉 です。

・趣味は何ですか？

趣味は 本を 読む こと と 映画も 見る こと です。

・行ってみたい場所はどこですか？

北海道 と 鎌倉大仏 と 東京ディズニーランド と 広島へ 行ってみたいです。

・休みの日は何をしていますか？

宿題をしたり、家事をしたり、両親と 出かけたり、それから ときどき 買い物 しています。

・好きな日本語は何ですか？

好きな日本語は 一生懸命 と 介護福祉士 と 利用者 です。

・今欲しいものは何ですか？

お金 と ミニマーズ の 平和 です。

・日本に来て驚いたことはありますか？

コンビニ と 交通手段が 便利なこと と 寒いこと と 日本の 物価が 高い ことです。



ティン・ター・トゥエ

・あなたの名前は？

私の名前は ティンタートゥエ と もうおます。

・好きな日本の料理は何ですか？

女子好きな日本の料理は お寿司 です。

・趣味は何ですか？

趣味は 旅行 すること です。

・行ってみたい場所はどこですか？

日本で有名な場所へ 行ってみたいです。

・休みの日は何をしていますか？

休みの日は 今住んでいる 所の有名な場所へ 遊び に行きます。

・好きな日本語は何ですか？

女子好きな日本語は 一生懸命頑張ります。

・今欲しいものは何ですか？

今欲しいものは 家 です。

・日本に来て驚いたことはありますか？

日本に来て 驚いたことは 道で乗る物か右側に 走っています。なぜなら私の国で 左側に 走っています。



スー・ミヤット・トゥエ

・あなたの名前は？

私の名前は スーミットエ とします。

・好きな日本の料理は何ですか？

女子が日本の料理は やきにく 女子がです。

・趣味は何ですか？

私の趣味は 料理 を 作る こと と 会合 を 振替 ことです。

・行ってみたい場所はどこですか？

行ってみたい場所は 東京 と 広島 へ 行きたいです。

・休みの日は何をしていますか？

休みの日は 日本語 を 勉強 しています。

・好きな日本語は何ですか？

女子が日本語は 漢字 です。

・今欲しいものは何ですか？

今欲しいものは けいたい 電話 です。

・日本に来て驚いたことはありますか？

日本に来ておどろいたことは 地下 金失 です。



アウン・ネイソー

・あなたの名前は？

アウン ニエイ ソー とします。

・好きな日本の料理は何ですか？

とんぶり です。

・趣味は何ですか？

サカ を する こと と 本 を 読む こと です。

・行ってみたい場所はどこですか？

ふじさん です。

・休みの日は何をしていますか？

日本語 を 勉強 します。

・好きな日本語は何ですか？

ふじさん 漢字 です。

・今欲しいものは何ですか？

パソコン です。

・日本に来て驚いたことはありますか？

でんしゃ に のり が た です。



ミヨー・トウラ

・あなたの名前は？

私の名前は ミヨー・トウラ とします。

・好きな日本の料理は何ですか？

好きな日本の料理は うどん です。

・趣味は何ですか？

泳ぐこととオートバイに乗ることです。

・行ってみたい場所はどこですか？

東京 です。

・休みの日は何をしていますか？

家族に電話をかけたり、買い物 します。

・好きな日本語は何ですか？

好きな日本語は “カンヤ” です。

・今欲しいものは何ですか？

多く 時間 です。

・日本に来て驚いたことはありますか？

大抵 日本人は 時間を守る ことです。

牛滝温泉一泊研修



牛滝温泉一泊研修



牛滝温泉一泊研修



【ご協力いただきありがとうございます】

社会福祉法人そうそうの杜では、当法人の理念や事業、目的に賛同される方、事業活動へのご支援をいただける方に寄付をお願いしています。寄付をしていただいた皆様には機関紙「想創奏」をお送りします。

寄付金について、従来は、当法人の理念や事業、目的や事業活動にご支援をいただいた方々に賛助会費と一般寄付という形で寄付をいただいておりますが、賛助会は実質的な活動を伴っていなかったため廃止させていただきました。

そのために皆様のご厚志は一般寄付という形で統一させていただくことにしました。

寄付の方法は、以下の郵便振替口座にて御振込いただきますようお願いいたします。今後ともご支援、ご協力いただきますように、法人として努力して参りますのでよろしくお願いいたします。



ゆうちょ銀行

口座番号：00940-5-185986

振込先（加入名）：社会福祉法人 そうそうの杜



一般寄付（2021年9月14日～2021年12月1日にご支援頂いた方）

井口 友子、伊藤 光子、浦野 安晴、大熊 章夫、大竹 茂、大屋敷 百合子
奥山 修子・京子、衣川 育良、倉川 俊介、古賀 妙子、近藤 貴、進藤 久子
關 宏之、太居 久実、竹中 康豊、竹本 伊津子、谷本 利雄、辻 八重子
中村 忠行、西田 信子、野間 満典、原田 てるの、松宮 誠記
綿谷 陽子

NPO 法人 自立生活センター・おおさかひがし、NPO 法人 ちゅうぶ

NPO 法人さかえ会 岸本 大三郎、大阪保育福祉専門学校 植田

株式会社ファーストステップ、すみれ愛育館 施設長 上西 克明

社会福祉法人コミュニティキャンパス 理事長 牧野 篤子

すみれ共同作業所、特定非営利活動法人ラルゲット 理事長 西尾 寿士

村田デンタルラボラトリー

（敬称略）

その他、地域の方々にアルミ缶・牛乳パック・おもちゃ、古本、中古家具等、様々な物品のご寄付を頂いております。

ますことを、心より感謝申しあげます。いつも本当にありがとうございます！！



法人本部

・大阪市城東区鳴野東3-2-26 Tel : 06-6965-7171 Fax/06-6167-2622

地域生活支援センターあ・うん 相談支援事業

・城東区鳴野東3-2-28 Tel/06-6969-8123 Fax/06-6167-2622

北部地域センター（大阪市障がい者就業・生活支援センター）

・城東区鳴野東3-2-28 Tel/06-6955-9921 Fax/06-6167-2622

とことこっと 居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援・訪問介護

・城東区中央1-6-28 Tel/06-6167-7530 Fax/06-6955-8826

庵 生活介護

・城東区中央1-6-23 Tel/06-6935-0909

げんげん 生活介護

・城東区鳴野東3-18-5 Tel/06-6180-9670

伝 児童発達支援・放課後等デイサービス

・城東区鳴野東3-2-26 Tel/06-6955-8070

創奏 生活介護

・城東区鳴野東3-3-1 Tel/06-6923-8929

Kawasemi 就労継続支援A型

・城東区中央1-6-29 Tel/06-6935-1111 Fax/06-6935-1911

杜のShokudo 就労継続支援B型

・城東区鳴野東3-2-26 Tel/06-6955-8080 Fax/06-6167-2622

座座 就労継続支援B型

・城東区鳴野東3-2-12 Tel/06-4258-6013

つむぎ館 就労継続支援B型

・城東区鳴野東3-2-26 Tel/06-6180-6820

今福事業所 就労移行支援・就労継続支援B型

・城東区今福南1-2-24 Tel/06-6933-0737

いま福の家 共生型（生活介護・地域密着型通所介護）

・城東区今福南 4-15-33 Tel/06-6180-7399

添 短期入所

・城東区鳴野東3-2-5 Tel/06-6167-5395

Lianの杜 杜のざっかやさん

・城東区鳴野東3-2-1